

水産研究本部の5月中旬～6月中旬の海況速報によると宗谷暖流の沖側に形成される冷水帯の影響で前線付近の50～100m深水温は例年よりも-7℃から+5℃の範囲ではらつく、複雑な水温構造を示しているようです。

▼国際捕鯨委員会（IWC）が管理対象としているのは約83種いる鯨類のうちシロナガスクジラやミンククジラなどの大型鯨類13種です。網走では現在、IWCの管理対象とされていないツチクジラなどを捕る小型捕鯨が大臣許可漁業として行われていますが、先月からミンククジラを対象とした調査捕鯨が始まりました。網走港にミンククジラが水揚げされたのは、IWCの商業捕鯨モラトリアム（一時停止）によって中断された1987年以来30年ぶりとなります。現在、日本による鯨類調査には南極海におけるものと北西太平洋におけるものがあり、今回の調査は2017～2028年まで続く網走沖を中心とした新北西太平洋鯨類科学調査計画によるものです。調査の目的は日本沿岸域におけるミンククジラにより精緻な捕獲枠算出とあります。水産試験場が行っているケガニ調査などと同様、資源の持続可能な利用を目的としたものですが、クジラとなると国々の考え方に根本的な違いがあり、モラトリアムの撤廃はなかなか難しいようです。

▼水産研究本部の成果発表会が8月8日（火）に札幌市にある第二水産ビル8階で開催されます。今年度は網走水試からの発表はありませんが以下の内容で14題の発表が予定されております。多くの方々の参加をいただければと思います。詳細は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kika-ku/H29seikahappyoukai.html>（網走水試 上田）

コンブ セッション 10:10～11:55

- ① コンブ生産の維持・増大へのロードマップ ー道総研水産研究本部におけるコンブ研究ー
- ② 雑藻を駆除してコンブを増やす ー道東海域の雑海藻駆除技術の高度化ー
- ③ もっと光を！ ーコンブが発芽・生長するために必要な環境条件とはー
- ④ コンブ乾燥システムの開発 ー省エネ・省労力なコンブ乾燥の実現ー
- ⑤ コンブ分布のいま・むかし ーGISを用いたコンブ分布域の変遷と分布特性の解析ー
- ⑥ コンブの親子鑑定技術の開発とその利用 ーDNA マーカーを利用した親子鑑定技術によるスポアバック効果ー
- ⑦ 早春の恵み「早採りコンブ」の活用について ーコンブペーストを利用した製品開発ー

一般発表 セッション 13:30～14:15

- ⑧ 低水温でカレイの赤ちゃんを育てる試み ー栽培漁業基盤調査研究ーアカガレイ種苗生産技術開発ー
- ⑨ 魚たちの餌生物を簡便迅速に分析する ーデジカメを用いた動物プランクトン試料の撮影と画像解析ー
- ⑩ 北海道にはイカナゴが3種いた！ ーマルチプレックスPCR法を用いた北海道産イカナゴ類の種組成解明ー

さけます セッション 14:30～15:30

- ⑪ 秋サケの来遊に大異変？ ー2016年の記録的な来遊不振をふり返るー
- ⑫ サケ稚魚の健診 ー現場で実施可能な種苗性評価ー
- ⑬ 感染経路を断ち、サケ稚魚の原虫病を予防する ー原虫病の感染経路解明と経路遮断による予防技術開発ー
- ⑭ ハーブでサケ稚魚を健康にする ーハーブ添加飼料の給餌がサケ稚魚の原虫病抑制に与える効果ー